

大豆難防除雑草「ホソアオゲイトウ」の 防除対策

農産部

1 背景、目的

近年、大豆を栽培しているほ場で、雑草であるヒユ類が多発することがあり、特に大型化するホソアオゲイトウ（図1）が問題となっています。ホソアオゲイトウが多発するとコンバインによる大豆収穫が困難となり、また、雑草と一緒に収穫してしまうと大豆に汚れが付着する汚損粒（図2）の原因にもなります。さらに、ホソアオゲイトウは1花穂で7,000粒以上の種子を着生することから、一旦発生し、種がほ場に落ちてしまうと次年度以降の蔓延にもつながります。

そこで、ホソアオゲイトウの防除を目的としてその発生生態を明らかにするとともに、効果の高い除草剤を選定しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 大豆播種後10日程度で、ホソアオゲイトウの総出芽数の90%以上が出芽するので、初期の防除が重要です（図3）。
- 2) 除草剤による防除については、大豆播種直後のクリアターン乳剤、ラクサー乳剤およびフルミオWDGの土壌処理により、高い防除効果が得られます（図4）。
- 3) 初期に防除できなかった場合は、ホソアオゲイトウの出穂までにタッチダウンiQを塗布処理することで、防除が可能で、種子の着生も抑制できます（データ略）。

3 主要なデータ・画像など



図1 ホソアオゲイトウが多発した大豆ほ場

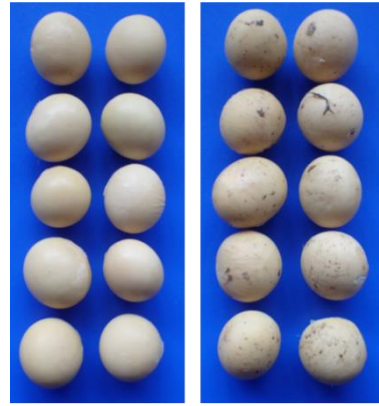


図2 正常粒（左）と汚損粒（右）

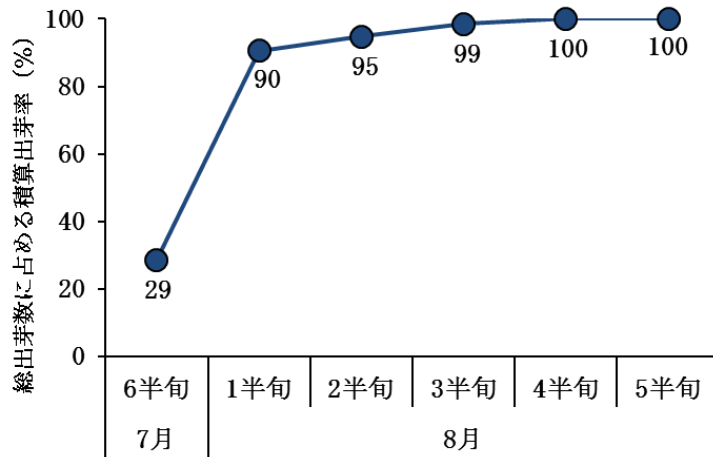


図3 ホソアオゲイトウの出芽推移（平成26年）

注) 7/24にフクユタカ（16株/m²）とホソアオゲイトウ（200粒を土壌表面に散布）を播種。中耕培土は未実施。

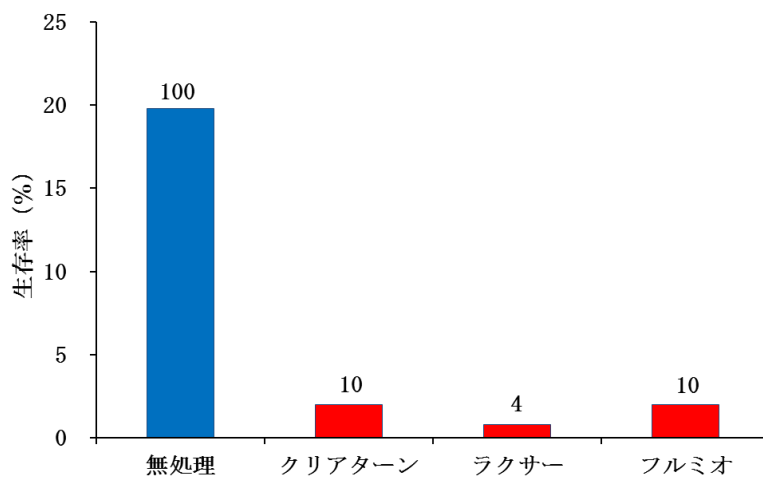


図4 ホソアオゲイトウに対する土壌処理除草剤の効果（平成25年）

注) 1. クリアターン乳剤、ラクサー乳剤、フルミオ WDG を10aあたりそれぞれ、800ml、600ml、10g 処理。

2. 図中の値は無処理区比 (%)。